

秋田市文化創造館  
アニュアルレポート  
2024

Akita City  
Cultural Creation Center  
annual  
report  
2024



## 1 年を振り返って

西原 珉（秋田市文化創造館 館長、キュレーター、心理療法士）

秋田市文化創造館の4年目を振り返り、文化創造の「創造」を、どれだけ広げることができたかと、自問しています。今年度、文化創造館では年間 1,000 件を超える活動が行われ、多くの方々が訪れました。この数字自体、文化の場として親しまれてきた証ではありますが、文化創造館が目指すのは「訪れる場」であるよりも、「関わる場」としての役割を育むことにあります。

そのため、4年目となる今年は、文化創造館を「気がついたら創造に関わっているような場所」にすることを目標にしました。何かをつくってみたいと思ったとき、少しためらいがあっても自然と後押しされる場所。創造のエネルギーが人から人へと伝わっていく場所。そんな文化創造館の姿を思い描きながら、さまざまな取り組みを進めてきました。

例えば、「ソウゾウカンラボ」や「チャレンジマーケット」です。少しずつこの場を使って制作や活動を行う人々が増えてきました。文化創造館の役割が、展示・イベントの会場であるだけでなく、制作が生まれる場でもあることが、より見えてきたと思っています。

また、文化創造館で始まった「カタルバー」は、来館者による自主的な運営へと引き継がれようとしています。もともとは館のプログラムとして始まったこの場が、参加者の手によって続いていくことは、文化創造館の「関わる場」としての在り方を象徴しているように思えます。

そして、次の「クリエイター・イン・レジデンス」ではアーティストやクリエイターが文化創造館を拠点に活動し、地域とつながる機会がさらに広がることが期待されます。文化創造の場としての可能性が、より深まり、広がっていくでしょう。

家の庭の木が、はじめは腰の高さだったのに、気づけば屋根を越えていた。いつ幹や枝を伸ばしているんだろう——そんな自然な育ち方を、文化創造館も目指しています。今年度の取り組みがどれだけ実を結んだのか、それを決めるのは、実は私たちではなく、関わった来館者・参加者皆さんの実感の中にあるのではないかと、と思っています。その実感にさらに答えながら、創造の場としての文化創造館を育てていく過程に、さらに多くの様々な方が参加していただけることを引き続きお待ちしております。

2024年3月末日に藤 浩志が文化創造館の館長職を退任し、4月1日に西原 珉が新館長に就任いたしました。

### 新館長就任トークイベント「文化創造館ってどんなところ？」

新旧館長2人が、秋田市文化創造館のこと、まちのこと、くらしのこと、表現のことなどをざっくばらんに語り合いました。

開催日 | 2024年5月11日(土)

登壇者 | 藤 浩志 (美術家、NPO 法人アーツセンターあきた理事長)、西原 珉

文化創造館の Spotify アカウントで聞くことができます



## 秋田市文化創造館とは

市民一人ひとりの創造力を育むため、学びと出会いの機会の提供、活動のための環境、情報発信などのサポートを行う、すべての人のための活動拠点です。どなたでも気軽に利用できるフリースペースとして、また、さまざまなイベントや創作活動の場としてご利用いただけます。

### 文化創造館を支える6つの基本方針

#### 1 空間の提供

すべての人に  
開かれた環境をつくる

魅力的な建築空間を活かして、休憩の場として、創造の場として、様々な用途に活用できる環境をつくります。

#### 2 機会の提供

創造力を養う出会いの  
機会をつくる

背景や価値観の異なる人が集まり、ともに創り、交流し、学び合うことで、新たな知識や視点に出会う場をつくります。

#### 3 創造支援事業

日常に息づく創造力を  
発揮する活動を支援する

利用者やクリエイターのアイデアの実現や発表、情報発信を文化創造館のコーディネーターがサポートします。

#### 4 創造実験事業

創造力を刺激する  
実験的事業をおこなう

クリエイターと協働した実験的なプロジェクトにより、市民の創造力を刺激します。

#### 5 地域連携

創造力を秋田の  
まちにひろげる

近隣の歴史・文化施設、商業施設や施設外のエリア、他分野の事業とも連携します。アイデアや企画を地域に開くことで新たな価値を生み出し、未来の文化を創造する力を秋田のまち全体にひろげます。

#### 6 情報発信・アーカイブ

活動の過程と成果を  
発信しアーカイブする

ウェブサイトや刊行物などを通じて文化創造館の活動を記録・発信します。また、全国各地で文化創造を試みる人たちと情報共有し、よりよい施設運営に活かしていきます。

P4-6 多様な施設利用 #空間の提供

P7 そうだん会もちつもたれつ #創造実験事業 #地域連携

P8 ソウゾウカンラボ #空間の提供 #機会の提供

P9 つくるを深めるワークショップ #空間の提供 #機会の提供

P10 クリエイター・イン・レジデンス 2024 #創造実験事業

P11 チャレンジマーケット #創造支援事業

P12 ゲストを招いたトークやワークショップ #機会の提供

P13 インタビュー連載、情報紙発行 #情報発信・アーカイブ

P14-15 カタルバー #機会の提供

P16 ショップ・カフェ #空間の提供

P20 館外活動のひろがり #地域連携

P17-19

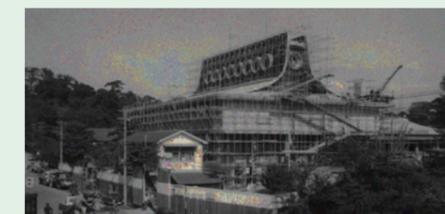
### PARK - いきると つくるのにわ

文化創造館を拠点に、市民や専門家が交わり、生活に基づく創造活動に取り組むプロジェクト

主催 | 秋田市 / 企画・制作 | NPO  
法人アーツセンターあきた

### 建物について

秋田市文化創造館の建物は、1967年に秋田県立美術館として秋田市中心市街地の久保田城跡・千秋公園のお堀近くに建設されました。独特な形状の屋根と円い窓は、藤田嗣治の大壁画「秋田の行事」を展示するため藤田の助言により大空間に光が降り注ぐよう設計されました。2021年3月に改修工事を経て秋田市文化創造館に。2023年、「日本におけるモダン・ムーブメントの建築280選」に選定されました。



写真：(株)みどり光学社所蔵

### 主なスペース

#### 2階 スタジオA1

旧県立美術館時代に藤田嗣治の『秋田の行事』が飾られていた館を象徴する大空間。高さを活かした活用が可能。



#### 2階 スタジオB

壁面を自由に造作可能。窓が無く、暗室にもできます。展示やパフォーマンス、会議などに。



#### 1階 コミュニティ スペース

自然光が差し込む開放的な空間。キッチンもあり、パーティーや料理教室にも。



#### デッキ・屋外エリア

芝生エリアや建物を囲むデッキで演奏会やマルシェの開催も。



## 多様な施設利用の紹介

文化創造館は、展示や講演会、マルシェなどのイベントはもちろん、サークル活動や作品制作など様々な用途でご利用いただけます（料金：1時間あたり1㎡5円～）。

什器や機材も必要に応じて、お借りいただけます。各名称や料金は右記からご確認ください。



スペース貸し出しについて▲



利用者からのコメント「創造館に集う人々と忘年会！」と思いつき、広！何しよう？と悩みましたが多くの方の応援と協力もあって楽しい一日になりました。

写真提供：RHマイナス6

【スタジオA1】A 竿燈講習会／利用者名|秋田市竿燈会 利用日|2024年6月3日(月)～6月7日(金) 使用備品|長テーブル×3、折り畳み椅子×6  
B SAKEと発酵市 in 秋田市／利用者名|秋田市 利用日|2025年1月17日(金)、1月18日(土)、2月7日(金)、2月8日(土) 使用備品|スピーカー & マイクセット①、PAセット①、ワイヤレスマイクセット①、スピーカー②、プロジェクター③、平台①×6、演台×1、折り畳み椅子×80、長テーブル×40、展示パネル①×5/②×5、展示台④×2、ベルトパーテーション×15  
C ダンスカーニバル／利用者名|秋田県社交舞踏教師協会 利用日|2024年5月12日(日) 使用備品|スピーカー②、PAセット②、ワイヤレスマイクセット②、長テーブル×6、折り畳み椅子×170、展示パネル①×2/②×5  
D 展覧会「漂着する思考-新屋浜をめぐる現代作家との対話-」／利用者名|NPO法人アーツセンターあきた 利用日|2024年7月17日(水)～8月5日(月) 使用備品|プロジェクター②×1、長テーブル×3、A看板×3、展示台④×5、折り畳み椅子×5  
【スタジオA2】E ELECTRIC JUNGLE!(エレクトリック・ジャングル!)／利用者名|ELECTRONICOS FANTASTICOS! 秋田 Orchest-lab 利用日|2025年3月8日(土) 使用備品|スピーカー①、スピーカーマイクセット②、PAセット②スピーカー④×2、パライト×2、平台①×5、折り畳み椅子×20

【スタジオA3】F 3Gモルック部／利用者名|3Gモルック部 利用日|2024年12月15日(日) 使用備品|折り畳み椅子×6  
G 秋田公立美術大学アーツ&ルーツ3年次授業成果展『ブランコをふむ、地回駈をこぐ』／利用者名|秋田公立美術大学 利用日|2025年1月29日(水)～2月6日(木)  
H 暴年会2024／利用者名|1㎡で何しよう？プロジェクト 利用日|2024年12月15日(日) 使用備品|長テーブル×7、折り畳み椅子×25、平台②×1、箱馬①×7  
【スタジオB】I 運フェスタ2024／利用者名|NPO 秋田千秋はすの会 利用日|2024年7月28日(日) 使用備品|プロジェクター①×1、スピーカー & マイクセット②×1、長テーブル×5、折り畳み椅子×60、ホワイトボードパネル×1、A看板×1、展示パネル×2  
J RHマイナス6 第4回公演「諸星五郎の逆襲」／利用者名|RHマイナス6 利用日|2024年5月10日(金)～12日(日) 使用備品|折り畳み椅子×70、箱馬①×16、長テーブル×2  
K 未発表展／利用者名|菊地 利用日|2024年10月25日(金)～28日(月) 使用備品|展示台④×1、A看板×2  
【その他】L 3Fエレベーターホールを平米貸 Keep Cities Wild, cuckoo Pop-up Shop and Performance／利用者名|Keep Cities Wild 利用日|2024年12月12日(木) 使用備品|スツール×10

## 様々な利用や挑戦を支援する

様々なバックグラウンドをもつ文化創造館のコーディネーターが、そうだん員として皆さんの話を伺います。そうぞう・創造・想像…「こんなことをやってみたい!」という思いを、誰かと話してみることで実現に向けて前進するかもしれません。そうだん会以外でもまずはお相談ください。

### 「そうだん会」

開催日 | 2024年4月5日、5月3日、6月7日、7月5日、8月2日、9月6日、10月4日、11月1日、12月6日、2025年1月10日、2月7日、3月7日(毎月第一金曜日)  
時間 | 12:00~18:00(1組あたり30分程度)



### 今年寄せられた相談例

- ・ イベントのチラシを作ることにハードルを感じるので、フォーマットがあると嬉しい
- ・ 自身が企画しているファッションショーで連携できるクリエイターを紹介してほしい
- ・ 個人でイベントを企画しているが、一人だと煮詰まってしまうので、とにかく話を聞いて欲しい
- ・ 撮影した写真のポストカード販売、パネル展示をしたいから利用方法を知りたい
- ・ 創造館にインターンやボランティアで関わりたい

※2024年度参加者数：34組

### そうだん会に参加した人のコメント(アンケートより)

- ・ 今決めることとやることの優先順位がつかまりました!
- ・ ずっと頭の中で考えていたことを、丁寧な説明にもかかわらず、コーディネーターのみなさまがとても肯定的に受け入れてくださり感謝です。次が見えてきました!
- ・ コーディネーターの方々が個性的で、それぞれの持ち味を活かして上手に対応していただきました。

### 減免制度対象事業の公募を実施

文化創造につながる活動を支援し、未来の文化・芸術と豊かなまちを育むため、年度ごとに定めたお題に合致し、指定管理者の審査を経て認められた事業について、全額または2分の1を上限として施設利用料を減免しました。

- 【お題その1】文化創造の担い手育成
- 【お題その2】秋田市中心市街地の防災

### 勉強会「もちつもたれつ」



地域にかかわる活動を担う人・興味をもつ人が悩みや課題、解決策を学びあう不定期開催の勉強会。いつもと変わらぬメンバーと話すだけでは行き詰る(息詰まる)議論を、少しひらくことで、気持ちが楽になったり、ヒントを得たり、突破口が見えたりしないか。そんな地域にかかわる人たちの互助的な集いを目指しています。

地域にかかわる活動を担う人・興味をもつ人が悩みや課題、解決策を学びあう不定期開催の勉強会。いつもと変わらぬメンバーと話すだけでは行き詰る(息詰まる)議論を、少しひらくことで、気持ちが楽になったり、ヒントを得たり、突破口が見えたりしないか。そんな地域にかかわる人たちの互助的な集いを目指しています。

勉強会「もちつもたれつ」  
第1回アートなまちづくり・八戸市で学ぶ  
開催日 | 2024年7月21日(日)  
会場 | 秋田市文化創造館1Fコミュニティスペース

大勉強会「もちつもたれつ」  
開催日 | 2025年1月13日(月・祝)  
会場 | 秋田市文化創造館2FスタジオA1

参加団体 | 秋田県観光文化スポーツ部 文化振興課、秋田銀行、あきた芸術劇場ミルハス、秋田市農山村地域活性化センターさとびあ、Atle DELTA

### 出張そうだん会



文化創造館について、より多くの方に知っていただくために不定期で「出張そうだん会」を開催しています。今年度は市内で市民活動に取り組む団体が多数集まり、日頃の

活動を示す「市民活動フェスタ」へ出張しました。館の外に赴くことで新たな出会いに恵まれ、参加者や他館との交流を通し「文化創造館」の特徴や意義について改めて考えるきっかけにもなりました。

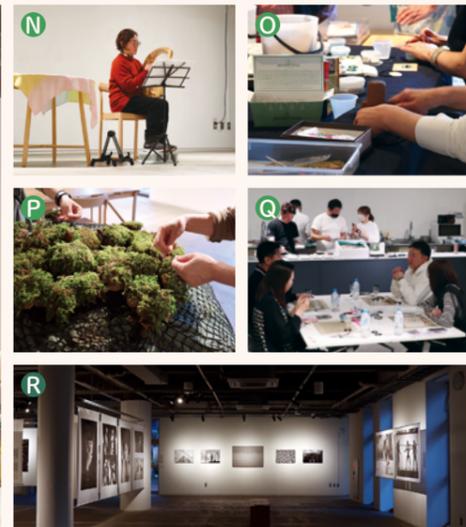
### 出張したイベント

市民活動フェスタ2025  
～輝け市民活動!  
あなたが秋田のヒーロー～

開催日 | 2025年3月9日(日)  
会場 | アルヴェ1階きらめき広場



利用者からのコメント | 申請から当日の利用まで丁寧な対応が印象的で、特に会場の照明調整のサポートをしてもらえるのがありがたいです。



利用者からのコメント | 当日は天気にも恵まれ、穏やかな夜と虫の鳴き声と共にイベントを行うことができ、沢山の方に足を運んでいただきました。今回使用させていただいた屋外スペースは、雰囲気のある照明や電源もありますし、なにより芝生にゴザを敷いてみなさんにくつろいでいただけた事が、最高でした。また使用させていただきます。



写真提供：折田 千秋

【コミュニティスペース】M 第9回 お堀端の古本市 / 利用者名 | ほんのたねあきた 利用日 | 2024年11月4日(月・休) 使用備品 | 長テーブル×30、スタッキングチェア×40、スツール×10 N ライアー演奏 / 利用者名 | 酒井志保 利用日 | 2024年10月13日(日)、19日(土)、12月22日(日)、23日(月)、25日(水) 使用備品 | スタッキングチェア×1 O 七宝体験教室 / 利用者名 | 湊七宝工房 湊征子 利用日 | 2024年4月12日(金)、5月10日(金)、6月7日(金)、7月12日(金)、8月30日(金)、9月13日(金)、10月11日(金)、11月1日(金)、12月6日(金)、2025年1月24日(金)、2月21日(金)、3月14日(金) 使用備品 | 木机×2、スタッキングチェア×6 P 苔玉作りワークショップ / 利用者名 | 秋田公立美術大学大学院二年生 羅雪薇 利用日 | 2024年11月7日(木)、8日(金) 使用備品 | 木机×1、ホワイトボードパネル×1、スタッキングチェア×20 Q 秋田の旬の地魚と酒を楽しむ / 利用者名 | 秋田県漁業士会 利用日 | 2024年4月6日(土) 使用備品 | 長テーブル×10、折り畳み椅子×20、調理設備 R 秋田市・パッサウ市姉妹都市提携40周年記念写真展「Flow/Glow」 / 利用者名 | 秋田市 利用日 | 2024年8月5日(月)~21日(水) S 盆踊 DISCO / 利用者名 | 酒泡酒泡クラブ 利用日 | 2024年12月14日(土) 使用備品 | PAセット②、スピーカー②、ワイヤレスマイクセット②、平台①×10、パーライト×2、長テーブル×11、スタッキングチェア×25、スツール×20、A看板×2、延長コード×2 T あきたクリスマス横丁 / 利用者名 | あきたクリスマス横丁実行委員会 利用日 | 2024年12月21日(土)、22日(日) 使用備品 | 長テーブル×15、折り畳み椅子×10、展示台④×2、A看板、調理設備×2 【屋外エリア】U 秋夜に薫る珈琲と小さな音楽会 / 利用者名 | 秋夜に薫る珈琲と小さな音楽会 利用日 | 2024年10月14日(土) 使用備品 | ゴザ×7 V STREET META GRAPHICS / 利用者名 | 折田千秋 利用日 | 2024年9月12日(木)~28日(土) W きのうちふるぎ、 / 利用者名 | きのうちふるぎ、 利用日 | 2024年10月13日(日) 使用備品 | A看板×1

## 「つくる」ための場がスタート「ソウゾウカンラボ」

つくるために必要な素材や道具、アイデアが揃う作業スペースが2024年7月から1階コミュニティスペースにできました。予約不要で、いつでも誰でも利用可能です。

貸し出し道具 | ハサミ、カッター、のり、ボンド、セロハンテープ、クレヨン、油性ペン、色えんぴつ



### 素材は随時募集中!

作業素材は秋田県内の企業や団体、来館者の皆様からご提供いただいています。

募集素材(例) | 空き箱、紙袋など  
協力企業・団体 | 秋田プライウッド株式会社、スズキテント有限会社、辻永クラフト工房、山田たたみ・ふすま店、有限会社金園、吉田ビニール株式会社



秋田プライウッド株式会社



吉田ビニール株式会社

### ソウゾウカンラボ拡大デー



普段よりも広いスペースを使っているのびのびと作業ができる日です。ゴールデンウィークや夏休みに合わせて開催。のこぎりやトンカチなど拡大デーにのみ使用できる道具も用意しました。

開催日 | 2024年4月27日(土)～5月6日(月・祝)、7月15日(月・祝)、8月3日(土)、8月25日(日)

### 出張ソウゾウカンラボ



作業のための道具や素材などをコンパクトにまとめたセットが出張します。他施設や館外のイベントでも作業ができるようにしました。

令和6年度 市民協働ミーティング  
「子育て×市民活動～みんなで育む“こみっと”広場～」  
開催日 | 2025年1月11日(土)  
会場 | にぎわい交流館 AU2階展示ホール  
「あきた まちのえき」  
開催日 | 2025年1月17日(金)～2月16日(日)  
会場 | 秋田駅ビルアルス地下1階

### リソの日(毎週水・土曜日)



かすれやにじみなどを活かした印刷が魅力なリソグラフ印刷機を有料で使えるプログラムです。ZINEや年賀状、フリーペーパーなどの制作にご活用いただきました。

### 参加者随時募集中!

ご予約はこちらから▶



### 3Dプリンターの日 / 3Dプリント部



創造館の3Dプリンターでモノづくりができる日です。初めて使う方はサンプルデータをもとに造形したり、経験者の方はデータを持ち込んでプリントできます。今後は部活として展開予定。

## 専門家を招いて「つくる」を深める



### 3Dプリンターってどんなことができるの?〈入門講座・ワークショップ〉

開催日 | 2024年7月21日(日)  
講師 | 高橋 卓久真(研究者・アーティスト)、菅原 慶真(秋田公立美術大学 情報センター主任)

デジタルファブ리케이션技術を使ったモノづくりの面白さ・ワクワク感にふれる入門講座を開催。発想法のレクチャーをもとに、面白いアイデアが次々にみられました。また8月には、3Dプリンターアイデアコンテストも開催し、手描きイラストのイメージを3Dプリンターでカタチにする体験も実施しました。



### イラストレーターに聞く、イラストレーターとつくる

開催日 | 2024年8月11日(日)  
ゲスト | NOY(イラストレーター、リソグラフオペレーター)、平石 かなた(秋田市地域おこし協力隊) 協力 | 有限会社金園

イラストレーターとして活躍する傍ら、原宿にある印刷スタジオ『STUDIO LE MOND』でリソグラフオペレーターを務めるNOY(のい)さんにイラストレーターとしての仕事について一問一答形式でお答えいただきました。後半ではリソグラフ印刷機の使い方を学び、一冊のZINEを制作しました。



### 8mm FILM Sound ワークショップ

開催日 | 2024年8月5日(月)  
ゲスト | 白井 勝(映画音響ディレクター)、石山 友美(映画監督・秋田公立美術大学 准教授) 共催 | 秋田8ミリフィルム・アンソロジー

映画や映像作品の録音に携わる白井勝さんをお招きし、録音・整音・音響効果についてのレクチャーや音づくりのワークショップを実施。ワークショップでは無音の8mmフィルムの映像にどんな音をつけるか話し合い、機材を使って収録し、映像に音をつけました。参加学生の皆さんが協力して音を探す様子がみられました。

## わがまま ZINE 百景との協力

自由に表現したZINEを募集し、展示・販売する展示会「わがままZINE百景」が、2024年9月14日(土)～15日(日)に「旧松倉家住宅」にて開催。企画者の高橋希さんから相談を受け、ZINEの表現の幅を広げる機会となるように、期間限定でリソグラフのインクを追加した「リソの日」スペシャルを開催しました。

「リソの日スペシャル」開催期間 | 2024年7月13日(土)～8月24日(土) 利用件数 | 16件 協力 | 有限会社金園  
「リソグラフ説明会」開催日 | 2024年8月3日(土)

### わがままZINE百景 実行委員会 高橋 希さん コメント

「好きな世界」を通して年代問わず繋がれるZINEカルチャーは、地方でこそ輝くのではないかと考え、企画した「わがままZINE百景」にご賛同いただき、応募者へのリソ説明会や冊子の制作サポートをしてくださいました。展示や什器についてもご提案を得られたおかげで「『つくる』を深める」結果に繋がりました。

ZINEとは? …「MAGAZINE」が語源とされる、個人や小グループが自主制作する印刷物。



「わがまま ZINE 百景」会場の様子



リソグラフ説明会の様子



「リソの日」を利用して印刷したチラシ

# クリエイター・イン・レジデンス 2024 利用者の「やりたい」を实践してみる10日間 ／ mizutama 練習プロジェクト10デイズランスルー

開催期間：2024年11月7日(木)～17日(日)

文化創造館の開館以降、多様な分野のクリエイターを招き、市民と共に創造力を刺激する実験的な活動を実施してきました。今年度は、大阪でアトスペース「FIGYA」を運営し、多様な活動を展開するアーティストの mizutama (みずたま) さんをゲストにお招きし、文化創造館だからできるレジデンスプログラムを検討しました。プロジェクトは9月のカタルバーや交流会からスタート。11月には10日間の「ランスルー(通し稽古)」と称し、館内設備や機能・情報・ネットワークを最大限活用しながら、mizutama さんと共に市民の「こんなことやりたい」という思いを実現するための試行・練習期間を設けました。最終日には「ふりかえり練習」として、活動の記録を展示するほか、最後まで「練習」をやり遂げました。そんなレジデンスを踏まえて館の出来ること、出来ないことを整理し、公募内容を検討。国外にも募集を広げ、2025年のレジデンスクリエイターが決定しました。



## 2024年度 スケジュール



## クリエイターコメント

見切り発車の快速的なスピード感で進む試みの中には笑いも涙も朝日も夕陽も関わってくれた皆のやりたい気持ちがプロジェクトの推進力だったように思います。文化創造館の大きなスタジオと豊富な機材でやりたい事が思い切りできました。次は秋田で何をやろうかな。

mizutama さん



## 参加者コメント

mizutama さんと交流会でお会いしたことがきっかけで練習に参加させていただきました。自分の中にある「音楽で何かしてみたい」をやってみる練習をしました。新たな自主企画を始めるきっかけにもなった貴重な体験でした。

佐々木 一ノ心 さん

ELECTRONICOS  
FANTASTICOS! 秋田  
Orchest-lab



## クリエイター・イン・レジデンス 2025 公募

【公募期間】  
2025年1月10日(金)～3月10日(月)  
18:00(日本時間)まで

【審査員】  
Aokid (ダンサー/アーティスト)  
mizutama (アーティスト / FIGYA 代表)  
西原 瑠 (秋田市文化創造館館長 / 東京藝術大学 美術学部 先端芸術表現科 准教授)

【応募件数】  
306 件

2025年度採択クリエイター

Rakhmi Fitriani  
ラクミ・フィトリアニ  
(インドネシア在住)



# 市民のチャレンジがカタチに「第2回 チャレンジマーケット」

開催日：2024年9月23日(月・祝)

ジャンル問わずやってみたいことにチャレンジしてみる機会として、2023年からスタートしました。第2回目は1階コミュニティスペースを会場に19組が出店。飲食物や雑貨の販売・パフォーマンスをはじめ、通常のマルシェでは出会うことができない一風変わったチャレンジングな内容のブースが並びました。同日にミルハスでもマルシェが開かれ、両館に多くの方が行き交いました。



## Snowflake / naobrando



マクラメ結びの個性的なストラップの販売

## 夢手箱 / 美海



ずっと興味があったハンドメイド作品を初出店で販売

## ASAMI SHOWPS / ASAMI



自身のコスプレ活動を通して地域とつながるための紹介展示

## 第2回ファンタジーRPGであそぼう! / インドアゲームズ



アドリブを交え、通りすがりの人と遊ぶテーブルトークRPG

## hef-up レーザー加工 / hef-up



レーザー加工の様子を披露・体験しながら販売

## 能登チャリティーマーケット / trunk



奥能登のボランティア活動で譲り受けたものの販売と被災地への募金活動

## あきた図鑑販売ブース / AKITA"KARA"



「みんなで作るあきた図鑑」の販売数を伸ばすチャレンジ

## 英語でポストカードをつくろう / ilo



だれでも参加できる、英語のメッセージをいれたポストカードづくり

## 手品見破りチャレンジ-コーヒー付き-/ 空のコーヒー店



最近覚えた手品の披露とコーヒー提供で笑顔を届ける

## 出店者コメント おしれの雑貨店 / こじまひろさん

押し入れの中で何年も眠っていたものを本当に大事にしてくれる人が現れるのだろうか...? と思いましたが、それも杞憂に終わりました。笑顔で品物を持ち帰ってくれたみなさんのお家で母のコレクションが活躍していることを祈っています。



## 出店者一覧

Snowflake (naobrando)、夢手箱 (美海)、“グラフ”ってなに? (一般社団法人 GRAF)、ASAMI SHOWPS (ASAMI)、第2回ファンタジーRPGであそぼう! (インドアゲームズ)、非常識犬猫短歌 (非常識犬猫苑)、hef-up レーザー加工 (hef-up)、能登チャリティーマーケット (trunk)、3時のおやつ (国学館高等学校調理部)、おしれの雑貨店 (こじまひろ)、占い・夢紡～ゆめつむぐ～ (フォーチュン yume& ここねつむぐの占い)、あきた図鑑販売ブース (AKITA"KARA")、英語でポストカードをつくろう (ilo)、『Kenichi.Yamada』弾き語りジュークボックス (Kenichi.Yamada)、バスカーランプの大道芸 (バスカーランプ)、手品見破りチャレンジ-コーヒー付き- (空のコーヒー店)、日常・ハーブティと食器 (ハーブティカフェ Flat)、きのうちふるぎ、(きのうち)、ほんのたねのつめあわせ (ほんのたねあきた)

## 他団体と共に学びの機会をつくる

ゲストを招いたトークやワークショップにより新たな知識や視点に会うプログラム。



### 対談「地図と熊と美術館」

開催日 | 2024年8月16日(金)

主催 | 秋田市文化創造館

登壇者 | 鴻池 朋子 (アーティスト)、奥脇 嵩大 (青森県立美術館学芸員)

ファシリテーター | 西原 珉 (秋田市文化創造館館長/心理療法士)



トークレポートは  
ウェブサイト  
でご覧いただけます

2024年夏に青森県立美術館で開催された、秋田市出身の鴻池朋子さんによる大規模な個展「メディスン・インフラ」に合わせ開催しました。屋内外問わず様々な場所や素材で作品をつくり多くの参加者を巻き込む「個展」をし「もはやアート観客は人間だけではない」と語るアーティストの真意は何なのか。担当学芸員の奥脇嵩大さんと共に、鴻池さんの軌跡を辿りつつ、これからの美術館の可能性と実践について話し合いました。



### わたしの防災勉強会

開催日 | 2024年9月5日(木)、10月16日(水)、11月14日(木)、2025年2月11日(火・祝)

主催 | 秋田市文化創造館 共催 | trunk

※2月は秋田駅ビル アルス地下1階「あきたまちのえき」にて開催

秋田を拠点に活動するコレクティブ「trunk」のメンバーが実際に被災地に赴いたレポートの共有や、防災食の試作等、参加者と共に考える場を定期的に関き、ZINEとして活動をまとめていきました。



### 防災 ITSUMO 講座 - 水害編 -

開催日 | 2024年12月7日(土)

ゲスト | 小倉 文佳 (NPO 法人プラス・アーツ)

実践的な防災準備をわかりやすく楽しく身につけることのできる講座を開催。秋田県内で身近な災害となっている「水害」をテーマに、秋田市のハザードマップを見て各自の避難について考え、日常的に取り組める防災の知恵・技について学びました。



### 5つのトーク「秋田京都感星特急便〈学びのためのディープタイム(深い時間)〉」

開催日 | 2024年10月26日(土)

主催 | 京都芸術大学 共催 | 秋田市文化創造館 後援 | 秋田市

登壇者 | 伊藤 俊治 (美術史家、京都芸術大学大学院教授)、石川 直樹 (写真家)、石倉 敏明 (芸術人類学者、秋田公立美術大学准教授)、山川 冬樹 (美術家、ホーメイ歌手、秋田公立美術大学准教授)、熊谷 新子 (編集者、秋田市文化創造館職員)

京都芸術大学大学院写真・映像領域のエクスカッション形式の授業を、創造館で特別無料公開しました。2024年度は秋田をフィールドに選び、藤田嗣治の壁画『秋田の行事』、勝平得之『秋田二景』、土方巽と石井漢、菅江真澄、白井晟一や『秋田—環日本海文明への扉』(著:伊藤俊治、石川直樹)などの活動現場を調査し、現代のアーティストの話題も盛り込みながら、風土と写真の関係を探りました。



### クロストーク「秋田、能登、クンストハンドヴェルク (アートと工芸)」

開催日 | 2024年11月4日(月・休)

主催 | 秋田市文化創造館

会場 | 太平山三吉神社総本宮 高館2階

主催 | 辺境地点(田村一) 共催 | 秋田市文化創造館

登壇者 | 伊藤 俊治 (美術史家)、赤木 明登 (輪島塗師)、石倉 敏明 (芸術人類学者)

土崎出身の美術史家・伊藤俊治さんが、太平山三吉神社や三吉梵天祭の由来、折口信夫、鈴木大拙、柳宗悦らの思想を読み解き、秋田と石川のつながりを「工芸と霊性」をキーワードに語りました。赤木明登さんは能登半島地震直後から取り組んできた「小さな木地屋さん再生プロジェクト」の詳細な実践プロセスを報告。後半は石倉敏明さんが加わり、トランスローカルな視点での制作論、今日におけるアーカイブの復権の意義について話しました。

## 情報発信・アーカイブ

創造館で行われる様々な事業の告知にとどまらず、秋田に暮らす人々の魅力的な活動の紹介などを通して、新たな活動のはじまりの応援となるような発信を試みました。また、実施した事業を記録し残すことも活動の一環として取り組んでいます。



刊行物



あこがれのひと

### ● インタビュー連載「あこがれのひと」 写真:石川直樹



第4回 中国料理 盛 堀岡 盛さん

秋田市八橋の住宅地の一角にある、行列の絶えない中国料理店「盛」。名物はレバニラ炒め定食、麻婆豆腐、店の隣の畑で採れたての野菜や、旬の食材を使ったおまかせの一品料理など。料理人の堀岡盛さんにお話をうかがいました。



第5回 猿倉人形芝居 木内 勇吉一座

安政5(1858)年に現在の由利本荘市島海町百宅に生まれた池田与八が創始した指人形芝居を、家族で継承する木内勇吉一座にお話をうかがいました。猿倉人形芝居は昭和49(1974)年に秋田県無形民俗文化財に登録されています。



第6回 作家 塩野 米松さん

「聞き書きの名人」と呼ばれる塩野米松さんにお話をうかがいました。小説と職人の聞き書きを中心に執筆活動を行う、仙北市角館町出身の作家は、アウトドア雑誌や旅番組、絵本や児童書も数多く手がけてきた名編集者であり旅人でした。

### ● 情報紙「そうする?」発行(年2回)

招聘クリエイターや創造館に集う書き手によるエッセイ、スタッフによる事業レポートなど、創造館と秋田の魅力を伝える情報紙です。



「そうする?7号」

### ● SNS

今年度新たにspotifyにて、ポッドキャスト配信を開始しました。創造館で開催したトークイベントのアーカイブを中心に随時配信していきます。



X (旧Twitter)



Instagram



Facebook



Spotify

### ● イベントカレンダー発行(毎月)

館内の情報を近隣店舗や市内の文化施設等で配布。



イベントカレンダー3月

### ● 2024年度プレスリリース配信、メディア掲載実績

・プレスリリース配信件数 | 21件 ・メディア掲載件数 | 65件

※一般利用の掲載分は省略  
(2025年3月31日現在)

## カタルバー

カタルバーは誰かと語り合うだけのバー(場)です。その日限りの店主、「一日店主」を募集し、参加者がゆるやかに語り合える場として開催(参加費、利用費無料)。2025年3月までに約260件ものカタルバーが様々なテーマで催されてきました。今年度、日時と会場を固定化したことで、これまでの参加者からカタルバーに対する意見を多数いただき、改めて仕組みについて考えるきっかけになりました。



### ● 2024年7月 カタルバーの日時と会場を固定化

「カタルバーに参加したいが、いつ開催しているが分からない」という声やその他の施設利用との兼ね合い、運営の効率化を考えて日時、会場を固定化しました。しかし、一日店主を務めてきた方々からは反対の声もありました。



**変更前**

日時 | いつでも  
会場 | 1階コミュニティスペース、2階カウンター、屋外

水曜だけになっちゃってさみしい～!  
またよければいろんなときに開催できると嬉しいです。  
スタッフさんのご負担にならない仕組みがあればいいのですが。



**変更後**

日時 | 毎週水曜日  
18:00～19:00  
会場 | 1階コミュニティスペース

水曜夜に固定にしたことで、参加者が偏っているように感じます。  
土日じゃないと参加しにくいです。



通常のカタルバーだけではなく、来館しやすい土日に施設を借りて自主的に開催する「野良カタルバー」がスタート。またそれを応援する人たちも現れました。



### ● 2024年8月 誰もがどこでもカタルバーを開催できる仕組みを利用者と共に考える

今年度は文化創造館以外の場所でカタルバーを誰でも開催できるようにする計画をスタッフ間で検討しました。固定化をきっかけに、利用者の方々から様々な意見やアイデアを聞くようになり、一緒に「館外でカタルバーを開催するルールや仕組み」を考えました。カタルバーの魅力は何か、「カタルバー」となる条件は何か、様々な角度から改めて見つめ直すきっかけになりました。



#### ミーティング開催

- 第1回「カタルバーの良いところ、好きなところ」| 2024年8月31日(土)
- 第2回「文化創造館から提供してほしいリソースは?」| 2024年10月13日(日)
- 第3回「どこでもカタルバーの手引きを作る」| 2024年10月24日(日)



◀レポートはこちらから

#### カタルバーの良いところ

- ・名前をあかさずことなくゆる～く他人と繋がれる
- ・事前申込不要で気軽に参加できる
- ・同じ興味興味を持つ人と出会う機会になる
- ・イベントに必要な最低限の備品が揃っている

#### 自主開催するために、文化創造館から提供してもらいたいリソースは?

- ・チラシのデザインフォーマット
- ・過去のカタルバーのテーマ一覧
- ・文化創造館のSNSやチラシなどで情報発信
- ・うまくいかなかった時の「ドンマイ」っていうちょっとしたなぐさめ

※アンケートより抜粋

### ● 2025年2月 どこでもカタルバーのガイドを作成、試験運用をスタート

これまでの一日店主経験者の方を対象に試験運用を実施。ガイドを元に2つの「どこでもカタルバー」が文化創造館以外の会場で開催されました。店主からのフィードバックをもとに告知に使用できる共有データの作成をしました。



#### 開催されたどこでもカタルバー

##### 旅のお供といっしょにしゃべりっこ

主催・一日店主 | ひがし  
日時 | 2024年2月7日(金) 13:00～14:00  
会場 | あきたまちのえき (秋田駅ビルアルス地下1階) 休憩スペース



##### 元福祉業界のそこのあなたへ。「支援」の想いはどこかへ消えた

主催・一日店主 | 支援お化けのK  
日時 | 2024年2月23日(日・祝) 17:30～18:30  
会場 | キタスカ 3F 洋室6 (秋田市北部市民サービスセンター)



### ● 2025年4月～ 本格運用を開始

完成したガイドを文化創造館のホームページ上で公開・共有。今後、様々な会場でカタルバーが開いていくことを期待します。



◀どこでもカタルバー詳細はこちらから

## ショップ「〇HAJIMARU」

秋田県内のお店や作り手による日用雑貨、焼き菓子、書籍のほか、秋田ならではの  
お土産品などを取り扱っています。また、文化創造館で開催されるイベントの  
関連グッズも期間限定で販売しています。秋田市内に店舗のある「08COFFEE」  
のコーヒーや「農園晴々」のハーブティーなど、セルフサービスで楽しめるドリンク  
もご用意しており、館内でくつろぐ際のお供にぴったりです。



Instagram



## ZINE STORE AKITA



秋田にゆかりのある作家7名による、16  
種のZINEのPOP UP。2025年4月9  
日からは一般公募により選ばれた作品に  
よる第2弾をスタートしました。

開催期間 | 2025年1月22日(水)～  
2月24日(月・祝)

## ポストカード販売 めとととね 冬編



秋田に暮らし、それぞれが異なる「め→  
視点」「て→手法」「ね→ルーツ」を  
持つ作家5人によるポストカードの販売  
企画です。

開催期間 | 2024年11月9日(土)～  
12月28日(土)

## 「東北デ、」POP UP



秋田、青森、山形のデザイナー6名による  
のPOP UPを開催。デザイナー達自らが  
デザイン、セレクトした、東北ならではの  
商品を展示販売しました。

開催期間 | 2025年1月18日(土)～  
2月27日(木)

## カフェ「豆腐百景」

秋田県産の大豆「りゅうほう」を使用した豆腐専門店です。秋田市將軍野  
に本店があり2023年4月から、文化創造館のカフェスペースに2号店が  
開店しました。ちょっとしたランチからイベントのケータリングなど、来館  
者の皆様にご利用いただいています。



Instagram

## 酒と発酵市 in 秋田市関連ワークショップ Let's! 三五八もみもみ



麴のプロフェッショナル・横手市の鈴木  
百合子さんと一緒に、三五八を使った漬  
物のワークショップを開催しました。

開催日 | 2025年1月18日(土)、2月8日(土)  
ゲスト | 鈴木 百合子さん(羽場こうじ茶屋  
「くらを」店主)

## 通常メニュー



「できたてせ豆腐」の量り売りや豆乳ド  
リンクなどバラエティ豊かな商品を扱っ  
ています。一番人気の商品は「よじろあげ」。  
油揚げと厚揚げの間のような食感で、店  
内では焼き立てを食べることができます。

## 屋外出店



お花見の時期や、千秋公園大手門の堀遊  
歩道の開通に合わせて屋外での販売を行  
いました。

開催日 | 2024年4月13日(土)、14日(日)、  
20日(土)、21日(日)、7月14日(日)、  
15日(月・祝)

## PARK - いきるとつくるのにわ / Public, Arts & Research Kitchen

秋田に暮らす人々やクリエイター、専門家が交わり生活に基づく創造活動に取り組むプロジェクト「PARK-  
いきるとつくるのにわ」。秋田市文化創造館を拠点に、「観察する」「出会う」「育む」「残す」の4つのプロ  
グラムを通して、秋田の土壌・文化を掘り起こし、未来に継いでいくためのたがやしに取り組みます。

## 今年度プロジェクト期間 2024年4月～2025年3月

主催 | 秋田市 / 企画・制作 | NPO法人アーツセンターあきた  
令和6年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

※本事業は秋田市「文化創造プロジェクト」の  
一環として実施しています。



PARK プロジェクト概要▶



## 観察する (日常を観察し活かすリサーチプロジェクト)

### まいごごっこ | 自分の活動場所を見つけるための日常の観察

まちの中へ意識的に迷い込み、まちの新たな面白さと出会うための実践的なプロジェクト。秋田公立美術大学の井  
上宗則准教授を発起人に、市民や学生が参加するプロジェクトチームが中心となって、まちの新しい見方を発見す  
るためのまちあるきや公共空間の活用に取り組みました。



### プロジェクトメンバーによる活動

開催期間 | 2024年6月～2025年2月

秋田市中心市街地をフィールドに、各地で行われている“まちの観察手法”を取り入れたまち  
あるきを試み、自由な発想で新たなまちあるき手法の開発や実践に取り組みました。



### トークイベント & まちあるき「まいごごっこ 01」

開催日 | 2024年10月5日(土)

ゲスト | 八馬 智(千葉工業大学 創造工学部デザイン科学科 教授、都市鑑賞者) 街パシャ! KAZU(街の翻訳家)

『日常の絶景: 知ってる街の、知らない見方』の著者・八馬智さんと秋田市で街の翻訳家として  
活動する街パシャ! KAZU さんをゲストに迎えたトークイベントを開催。トーク後は、秋田  
市中心市街地における絶景を探すまちあるきを実施しました。



### まちあるき「朝日を見る朝活 - 千秋公園編 -」 / トライアルイベント「冬の遊歩道の景色をつくってみる」

開催日 | 2025年2月19日(水)、2月24日(月・祝)

プロジェクトチームが企画した2つのイベントを開催。「朝日を見る朝活」では千秋公園に日の  
出前に集まり、参加者の方々と早朝ならではの面白さを語り合いました。「冬の遊歩道の景色を  
つくってみる」では、冬季閉鎖中の遊歩道を特別開放し、冬ならではの過ごし方を模索しました。

## 出会う（新しい視点や風景と出会うトーク・ワークショップ）



### 空間をひらき、人とつなぐ | 活動場所とコミュニティのつくりかた

開催日 | 2024年8月18日(日)  
会場 | 秋田市文化創造館 屋外  
ゲスト | 西村 周治(西村組/合同会社廃屋 代表)、栗原 エミル(株式会社アウトクローブ 代表取締役)

廃屋を再生し、活用してきた建築集団「西村組」の西村周治さんとカフェや宿泊施設、レンタルスタジオなどが一体化した複合拠点「アトレデルタ」を運営するアウトクローブの栗原エミルさんをお迎えし、閉じた空間を活用し、人が集う場所として再生する取り組みや、活動を楽しむ姿勢について伺いました。



### 街角パフォーマンスフェスティバル

開催日 | 2024年9月21日(土)  
会場 | 秋田市中心市街地 各所  
出演 | 長谷部 美枝子、カズ、山岸 耕輔、こばやしれいこ、大村 香琳、銅ふたろ、津田 啓仁、つばさ、エレクトロニコス・ファンタスティコス! 秋田 Orchest-Lab、齋藤 操、小助川 葵、酒泡酒泡クラブ、半透明、秋山 卓登、加賀谷 葵

秋田市中心市街地の広場や道端を舞台に、秋田に暮らす人や表現活動を行う人たちが出演者となり、身体表現や演奏・即興演劇・参加型ワークショップなどの発表を行いました。



### まちと出会いなおす

開催日 | 2024年9月28日(土)  
会場 | オンライン、秋田市文化創造館 スタジオB(パブリックビューイング)  
ゲスト | 影山 裕樹(編集者、千十一編集室 代表)

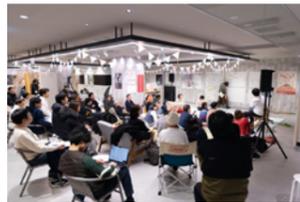
編集者の影山裕樹さんを迎え、まちと出会いなおす方法としてのメディアと編集について、これまでの活動をもとにお話いただき、後半は秋田という街を考えるための質疑応答を行いました。



### 土地を味わい、活かす食事

開催日 | 2024年11月8日(金)  
会場 | 秋田市文化創造館 1階 コミュニティスペース  
ゲスト | 渡邊 健一(Remède nikaho オーナー・シェフ)

教育、福祉、まちづくりなど、「料理」を起点に様々な分野とつながるフレンチシェフ・渡邊健一さんの活動の源にある、地域の文化やそこに住む人々への思いを伺いました。



### 秋田駅前の使い方を想像するミーティング

開催日 | 2025年2月16日(日)  
会場 | あきた まちのえき(秋田駅ビル アルス地下1階)  
ゲスト | 奥 真由美(一般社団法人 Sail on Japan 代表理事)、石山 拓真(いしころ合同会社 代表社員)、trunk(「あきた まちのえき」運営)

横手駅・大館駅・秋田駅で行われた特色ある活動の紹介をヒントに、参加者と共に秋田駅前エリアのこれからの姿を想像し、語り合うミーティングを開催しました。

## 残す（未来に継承するためのアーカイブ）



### 「あきた まちのえき」参加

開催期間 | 2025年1月17日(金)~2月16日(日)  
会場 | あきた まちのえき(秋田駅ビル アルス地下1階)

県内のアーティストや職人、料理人、農家、学生、起業家、観光客などが滞在し、交流する期間限定イベント「あきた まちのえき」に参加し、「PARK-いきるとつくるのにわ」の活動を紹介する展示を行いました。



### 「PARKのどうぐをスタディする」展示

開催期間 | 2025年3月~  
会場 | 秋田市文化創造館 1階 コミュニティスペース

「PARK-いきるとつくるのにわ」の活動を秋田市文化創造館のさまざまな場所、そして秋田の街中で展開していくための「どうぐ(ツール)」を考える展示を実施。クリエイターユニット・岩沢兄弟が設計したカゴ台車を用いた「どうぐ」プランの紹介と、使い方アイデアを募集する展示を行いました。

## 育む（手を動かして実践する場）



### 文化創造館の庭で夏野菜を育てよう

開催期間 | 2024年5月~11月  
会場 | 秋田市文化創造館 デッキ

昨年に引き続き、秋田市文化創造館での野菜栽培を実施。土作りから毎日の水やりや観察、収穫、調理、実食、片付けまで、体を動かしながら学び、参加者同士で協力し合いながら取り組みました。



### デモンストレーション+トーク「大地とつながるひと皿」

開催日 | 2025年2月20日(木)  
会場 | 秋田市文化創造館 1階 コミュニティスペース  
登壇者 | 渡邊 健一(Remède nikaho オーナー・シェフ) 沢田 武瑠(SENTE 代表)

秋田の天然素材を活かした土づくりに挑む農家・沢田石武瑠さんと、フレンチシェフ・渡邊健一さんによるトーク及び、沢田石さんの九条ネギを題材に、素材の魅力を活かす料理のデモンストレーションを行いました。

### 日常をプレイする連続演習「プロジェクト・コモンズ!」

開催期間 | 2024年9月~2025年2月  
会場 | 秋田市文化創造館、アトレデルタ、秋田市中心市街地

多彩な講師と共に、観察編・企画編・実行編・批評編の4回を通して、企画の作り方、動かし方を学ぶ連続演習を開催しました。



### 演習1【観察編】 | Local Book Shelf™ を作ろう

開催日 | ①オンラインレクチャー | 2024年9月28日(土)  
②現地ワークショップ | 1日目: 2024年10月12日(土)、2日目: 2024年10月13日(日)  
講師 | 影山 裕樹(編集者、千十一編集室 代表)

自分たちの活動場所をさらに面白くするにはどのような「目」が必要か。「見つける」から人に伝える「メディア」となるまでを考えるレクチャー・ワークショップを通し ZINE の制作を行いました。



### 演習2【企画編】 | 「やりたい」からはじめる企画の育て方

開催日 | 1日目: 2024年11月17日(日)、2日目: 2024年11月24日(日)  
講師 | 平元 美沙緒(まちづくりファシリテーター)

ワークシートを使い自分の興味や得意をみつめ、自分のやってみたいことをイメージしながら、企画のアイデアを具体化し、実現するための道筋を学ぶワークショップを実施しました。



### 演習3【実行編】 | 秋田市を使うトレーニング

開催日 | 2025年1月11日(土)  
講師 | トモ都市美術館(幹事: トモトシ)

「夏の秋田の人の動きを冬の秋田で再演し、短編映像をつくる」ことを通して、自分の企画を実現する場である秋田市を「使ってみる」ことに取り組みました。



### 演習4【批評編】 | ふりかえる、かんがえる、なげかえす

開催日 | 2025年2月24日(月・祝)  
講師 | 藤 浩志(美術家、秋田公立美術大学教授)

アイデアや企画、試してみたいまちの使い方についてのプレゼンテーションを行いました。同じ志を持つ参加者同士でコメントを送り合い、企画を次のステップに進めるための振り返りの方法を学びました。

## 館外活動のひろがり

文化創造館の活動やアイデアを活かした企画を他団体と実施する機会が増えています。



### あきた まちのえき

東京藝術大学と秋田ステーションビル株式会社がアートを通じて、秋田のまちをさらに元気にする企画として、秋田駅ビル「アルス」地下1階を会場に開催。館長が企画監修を務めたほか、創造館のワークスペース「ソウソウカンラボ」を出張。新たな活動の場を育みました。

開催期間 | 2025年1月17日(金)～2月16日(日)

会場 | 秋田駅ビル アルス地下1階  
主催 | 東京藝術大学  
共催 | 秋田ステーションビル株式会社  
運営 | trunk、NPO法人アーツセンターあきた  
協力 | 東日本旅客鉄道株式会社 協賛 | 秋田プライウッド株式会社  
後援 | 秋田県、秋田市、公立大学法人秋田公立美術大学、秋田魁新報社、ABS秋田放送、AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、朝日新聞秋田総局、読売新聞秋田支局、毎日新聞秋田支局、秋田経済新聞、CNA秋田ケーブルテレビ



### 秋田 COI-NEXT 拠点 ソウゾウの森会議

創造館の活動の特徴である自立的な活動を育む機会として、屋外エリアで自由にくつろぐ場所を見つけてもらいました。後半では「失敗から学ぶ」をテーマにした講演を開催。

開催日 | 2024年7月27日(土)

会場 | 秋田市文化創造館  
ゲスト | 山川 恭弘 (バブソン大学 アントレプレナーシップ准教授)  
地域主催者 | 芦立 さやか (秋田市文化創造館 ディレクター)  
主催 | 公立大学法人国際教養大学 共催 | 株式会社Q0  
運営 | 秋田市文化創造館  
連携 | 公立大学法人秋田県立大学、公立大学法人秋田公立美術大学



### 持続可能なアートプロジェクトのための 人材育成研究会 キックオフミーティング

より良い職場環境の向上を目指し、類似する団体等と共にお互いの課題を共有し、対策を思考し、アーカイブしていく研究会を発足。外部サイト (note) にレポートや専門家によるテキスト等を掲載していきます。

開催日 | 2025年3月17日(月)

会場 | 秋田市文化創造館、オンライン  
主催 | 秋田市文化創造館  
助成 | 公益財団法人 小笠原敬晶記念財団  
参加団体 | 秋田市文化創造館、京都芸術センター、国際芸術センター青森 ACAC、札幌文化芸術交流センター SCARTS、せんだいメディアテーク (五十音順)



note

### ステージラボ八戸セッション 「アートセンターと居場所」

全国の公立文化施設等の職員を対象とした研修機会の一コマを担当。創造館の職員になりきって日々のトラブルに対応するロールプレイを実施し、公共施設とは何か、その可能性について改めて考えました。

開催日 | 2024年7月4日(木)

会場 | 八戸市美術館  
主催 | 一般財団法人地域創造  
コーディネーター | 大澤 寅雄 (合同会社文化commons研究所代表・主任研究員)  
ゲスト | 三富 章恵 (NPO法人アーツセンターあきた事務局長)

はじまりの美術館 開館10周年企画  
トークシリーズ「てんでバラバラ～はじまりあれこれ、あちこちはじまり～」

### 第7回「すべての人に場を ひらく - スケーターもクレマーも -」

出張カタルバーの形式で、はじまりの美術館に語る場が登場。「すべての人に場をひらく」とする文化創造館の基本理念をどう体现するか、試行錯誤の様子をお話しました。

開催日 | 2024年10月5日(土)

会場・主催 | はじまりの美術館  
ゲスト | 三富 章恵

喜多方市文化創造都市講演会

### 「みんなでつくる なにかがおきる 誰もがクリエイティブを 発揮する秋田市文化創造館 に学ぶ」

文化芸術創造都市の推進に取り組む喜多方市。地域資源や市民をコーディネートすることや創造性の力について考えるため、創造館の事例を紹介しました。

開催日 | 2024年10月6日(日)

会場 | 喜多方プラザ  
主催 | 喜多方市教育委員会文化課  
協力 | 一般社団法人会津地域文化芸術フォーラム  
講師 | 芦立 さやか

## 2024年度 秋田市文化創造館 外部評価委員会

県内外の様々な分野の専門家を招き、文化創造館の成果や課題について議論を蓄積する場として、毎年委員会を開催し、今年もそれぞれの視点から評価をいただきました。

開催日 | 2025年2月6日(木) 会場 | 秋田市文化創造館

### 上松 留美 (ハラッパ AFTER SCHOOL 代表)

そうだん会をやっているが、最近むしろスタッフが忙しそうで相談しにくい、ハードルがあがった印象を受けている。開館前後に創造館を応援してきた人たちから置いてけぼりな気持ちを感じるという声も聞く。創造館を作る時に、「コーディネートする」という点が魅力だったが、だんだんとそれが薄れ、貸館のイメージができてきてしまっている。その印象が定着する前に、セーブするところはセーブし、もっと強化したいところは創造館からアプローチしていくことも重要。秋田の人たちは積極的ではない側面もある。利用者間の仲介・仲裁や、職員による定期巡回などをお願いしたい。また高校生の勉強する姿もいいが、親子連れが入りにくい雰囲気が出てきていると感じる。館内でゾーニングの工夫があっても良いのでは。

### 大澤 寅雄 (NPO法人アートNPOリンク 理事長)

施設利用件数や来館者数がどんどん伸びることは嬉しいが、リスク対策や安全性、職員の疲弊を考えた場合、数値が伸び続けることが必ずしも良いとは言えない。それが施設としての多様なチャレンジ力を阻害する要因になってはむしろ問題。創造館は余白が大事。単に貸館で100%近い利用となれば良いわけではない。物理的な場所の余白もそうだが、職員の心理的・時間的な余裕や余白も同じ。相談対応する場合でも利用者が職員に依存しすぎないような意識も必要。また、様々な得意分野を持つ職員がいる中で、その専門性への対価が適正であるべきだとはっきり言及してほしい。さらに、創造館での勤務経験が、その後のより良いキャリア形成につながり、アートマネジメント業界全体の人材育成になるような設計が必要だと思う。

### 小倉 拓也 (秋田大学 准教授)

利用者数増は創造館の先鋭的な取り組みが理解を得ている証拠であり、その点は素晴らしいことだが、スタッフの負担という観点から、健全ではないバランスになってきているかもしれない。独自性を殺すのではなく活かす方向でターゲットを絞るべきなのかもしれないが、それは創造館の「公共施設」としての側面を見つめなおすことを要請するだろう。実のところ、利用者にはすでにリピーターが多く、文化や創造に関心のある一部の市民の「上澄みをすくう」状況になっている可能性もある。「アンチ創造館」といった層が出てくる可能性も。それは必ずしも否定されるべきことではないが、当初の「誰にでも開かれた」という理念を維持し続けることは容易ではなく、それを再定義していく必要があるだろう。スタッフのモチベーション維持は、お金の問題に尽きるのではないかと。やりがい搾取になってしまわないよう、物価高騰や県の人口流出も念頭に、専門的なスキルのある職員にそれに見合った対価を手当てすべきであり、人件費予算をしっかりと要求していくべきだろう。

### 工藤 尚悟 (国際教養大学 准教授)

普段、創造館へはイベントがあるから行くのではなく、「この原稿を書くから行こう」という使い方をしている。イベントのような「ON」のところだけではなく、「OFF」のところも意識してほしい。OFFがあるから、勉強しに来たり、ふらっと足を運ぶ人がいる。ONを強化すると、OFFが弾かれてしまう。文化創造館は「文化を創造する」という明確なネーミング。秋田で「文化を創造する」をどう読み解くかという、日常生活の動線の中に創造館が入っていることが文化創造館だと思う。イベントに引き付けられてきているのではなく、自分なりの使い方を。そういう層をどう増やしていくか。こういう場所は自分の日常の中に要らないから必要ないと考える人が出てくるのはリスク。創造館の本質的な価値を言語化できるようになる必要がある。

### 林 千晶 (株式会社Q0 代表取締役社長)

創造館は、「メインストリーム」に対する「オルタナティブなみんな」に開かれていると理解している。それが最近、いい意味でちょっとづつメインになってきている。ただ、創造館を誰にでも貸して「テナント業」になるのはもったいない。開館5年目が見えてきて、そろそろ「何のための施設」なのかをもっと説いても良いのではないかと。今年度の報告で「つくる」イメージを強化しているとのことだが、どんな「つくる」が行われて欲しいのか。どう使われていて、何が生まれているのか。その発信が足りていない。使い方のモデルケースをもっと見せて、「これが正解」ということではなく、「使い方はあなた次第」というスタンスを伝える。利用件数よりもこれ！という事例を是非増やしてほしい。

### 三浦 崇暢 (秋田市仲小路振興会 副会長)

SNS (X) のインプレッション数が減っているにもかかわらず、利用者や来館者数が増えているというのはチラシの効果やリピーターの効果だろうと想像する。不動産業のノウハウを踏まえると、利用者・来館者の属性が変わってくると、リスクが高まる懸念がある。「マス」に訴求することで、これまでの治安が維持できなくなる。この場所はこういう風に使ってほしいという事例を示すことで、準備すべきリスク対策や安全性の担保が変わってくる。また、人材育成はすごく大変なこと。管理チームと事業チームを一体化したとのことだが、管理や企画双方の業務ができるのはマネジメントレベルの業務範囲や難易度を抱えることになるのでは。次雇う人の賃金設定をどうするか。新人と古参の賃金バランスについても配慮が必要。

## アンケート調査

文化創造館では2021年の開館以来、継続的にアンケート調査を実施しています。

### 来館者からの声

●ここでイベントが盛んにおこなわれているのは知っていましたが、どういふ場所なのかわからなかったのて来てみました。とても興味深く面白かったです。

●近隣の高校の部活動とコラボイベントをしてほしい。

●植物が枯れていますよ。

●入り口のドアが閉まる際にガチャンと音を立ててうるさい。

### 利用者からの声

●いろいろな分野の方と出会える施設だと思います。

●出来ることに自由度も高くとてもいい施設、設備だと思います。

●以前よりも土日は混雑していて盛り上がりかっていると思います。

●総合案内がかなり入りづらかった。

●メールのやりとりの際の確認がやや遅く、確認漏れもある。

### 参加者からの声

#### ソウゾウカンラボについて

●家ではゲームばかりの子どももこの場所の雰囲気と和んでいました。

●普段使わない材料や工具で創作できて子どもがとても喜びました。

#### チャレンジマーケットについて

●出店者それぞれのチャレンジの熱が凄まじかったです。

●販売目的のチャレンジと、人との交流目的の側面があるチャレンジとあって、雰囲気が良く感じた。

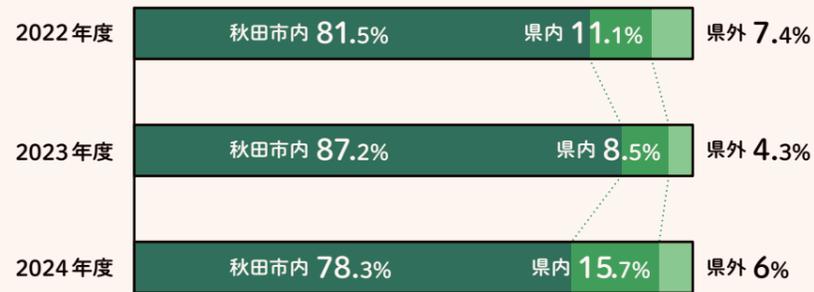
#### トークイベントについて

●知らないことが知れるって何歳になっても良いなと思いました。

●新しい視点に出会う機会になった。

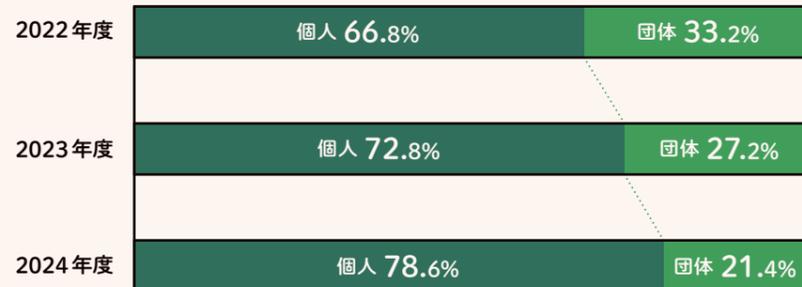
### どんな人たちが、どんな活動をしているの？ 利用者アンケートから、過去3年の変化をみましょう

#### 居住エリア お住まいのエリアを教えてください

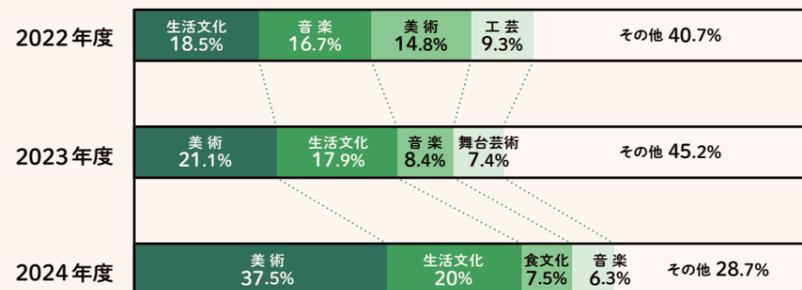


約8割が市民！県外の人たちの利用も増えています。

#### 個人・団体比率 ご利用されたのは個人ですか？団体ですか？



#### 活動分野 あなたの活動分野をお答えください



その他：水産業、福祉・健康づくりほか

## 数字で見る文化創造館

数字を見ながら、1年を振り返ってみましょう。

#### 来館者数

# 186,840人

利用者だけでなく、大手門の堀遊歩道が開通したり、クルーズ船の寄港が相次いだことで、たくさんの方に来館いただきました。

#### 1番多かった日の来館者数

# 4,002人

4月14日(日)  
千秋公園「桜まつり」の影響で過去最高

#### 施設利用件数

# 1,143件

前年比 137%  
最も多かった日の最大利用件数は13件でした。

---

#### PARKで育てた野菜やハーブの種類

# 18品目

ゴーヤ、きゅうり、大玉トマト、ミニトマト、長ナス、白ナス、ピーマン、とうがらし、オクラ、インゲン、さつまいも、枝豆、空芯菜、いちじく、大葉、カモミール、バジル、ローズマリー

#### 豆腐百景の看板メニュー

# 4,365枚

「よじろあげ」を店内で焼いた枚数

たくさんお召し上がりいただき、ありがとうございます。

#### ○HAJIMARUの売れ筋トップ3

1位 | 08COFFEE コーヒーバック(カップ付き)

2位 | オーガニック ジンジャーエール

3位 | ミネラルウォーター

ドリンクが上位を占めました。館内外どこでも飲食可能です。

### ところで、来館者数をどうやって数えてるのですか？

文化創造館では、館内の状況を把握し、安全性の確保や円滑な運営を図るため、施設の出入口に通過人数自動カウンターを設置し、来館者数を計測しています。人が出入口を通過するとセンサーがそれを検知し、来館者の出入りを計測する仕組みとなっています。

センサーが設置されている出入口は4カ所で、お堀側2つの出入口と「あきた芸術劇場ミルハス」側の出入口、「中央図書館明徳館」側の出入口です。

自動カウンターは一人当たりの出入りや再入館であったり、職員や関係者の出入りも計測してしまうので、文化創造館ではより正確な数字に近づけるため、各自動カウンターが計測した数を合算し、その数を4で割り算して来館者数を算出しています。2024年度は186,840人でしたので、まさに747,360回の出入りを計測したことになります。ただし、屋外や外階段からつながる2階出入口には自動カウンターが設置されていないので、実際にはもっと多くの人や「わんにゃん」に訪問いただいたかもしれません。





Akita City  
Cultural Creation Center  
**annual  
report**  
2024

秋田市文化創造館  
アニュアルレポート  
2024 年度

発行日 | 2025 年 5 月

発行元 | 秋田市文化創造館  
(指定管理者 | NPO 法人アーツセンターあきた)

企画・編集 | 秋田市文化創造館

デザイン | 伊藤 靖史 (Creative Peg Works)

写真 | 安藤 陽夏里、石川 直樹、伊藤 靖史 (Creative Peg Works)、  
草薨 裕、コンドウダイスケ (アキテッジ株式会社)、坂口 聖英、徐 津君、  
高橋 希 (オジモンカメラ)、星野 慧、三輪 卓護、ほか秋田市文化創造館スタッフ

印刷 | 株式会社グラフィック

秋田市文化創造館  
(指定管理者 | NPO 法人アーツセンターあきた)

〒010-0875 秋田県秋田市千秋明徳町 3-16

TEL | 018-893-5656 FAX | 018-893-5659

e-mail | info@akitacc.jp

https://akitacc.jp